

2022 年度（令和 4 年度）事 業 報 告 書
（2022 年(令和 4 年)4 月 1 日～2023 年(令和 5 年)3 月 31 日）

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

設立 10 年目の節目の年であった 2022 年度は、次の 10 年を見据えた一歩となるような取り組みを進めていくことができた。最大の変化としては、こまちぷらすとして 2 店舗目となる「こまちカフェ」の姉妹店「こよりどうカフェ」を開店したことである。まちに心地よい関わりのうまれる居場所を日本中に増やしていきたいと考え実践する中、こまちぷらすとしても新しい形態への挑戦となっている。

新しい店舗の開業と同時に、産前から産後・復帰前から復帰後といったライフステージの変化があっても孤立することがないように、より一層情報発信や連携に力を入れた。具体的には産前産後に情報が届く講座やおしゃべり会の実施に加えて、LINE で情報が届く仕組みを実施、運用している。また、特にこよりどうカフェでは近隣の保育園との連携を深め、働いている子育て中の方に地域の情報を伝えたり、お惣菜をお届けする仕組みを実施する素地を作ることができた。また、昨年度から引き続きどの事業でも「参加」の余白を意識して展開することを心掛けた。参加することで仲間ができる、参加することで自分の力を再確認する、子育ても楽しくなる、そんな循環作りに尽力してきた。カフェの外販売やウェルカムベビープロジェクトの背守り縫い、情報部門の情報発信・日々の業務においても、いかに多くの方と一緒にその場をつくって「子育て中の方と街にいる様々な人との接点」を増やしていけるか、挑戦することができた。更に、こまちカフェのような居場所やウェルカムベビープロジェクトのような取り組みが他地域でも立ち上げやすく続けやすくなるような取り組みを進めた。具体的には、オープンソース化や講座の展開、インターンの受け入れ、出張こまちカフェによる展開等を実施した。

これらの実践を支えるために、2021 年度に完成したクレドを活用した研修や内部の対話・事務局の体制強化に力を入れることができた。

<事業内容>

I. 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集しネット上に毎月 100～200 件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につながることを狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】2022 年度は、入力してくださるこまちパートナーさんの入れ替えがあり、新たに 3 名の方をお迎えし、繁忙期やチーム内での質問や相談時にフォローしてくれるスタッフを 3 名常設する体制を整え、最終毎週チラシを元に情報入力をしていただき、最終チェックをした上でチラシデータを掲載した上で公開してきた。また、最終チェックを行える人材を増やすことを検討してきたが、入力部隊の新体制を整えることを優先することにした。コロナ禍による影響は減少傾向にあり、入力件数も徐々に増えてきたことに喜びを感じる入力および情報公開となった。地域こそだてカレンダーのユーザーさんの声を集めるために、アンケートフォームの作成を行ったが、地域こそだてカレンダーのシステムの問題上、見づらい課題を残したままヒアリングをすることに疑問を持ち、残念ながら中止となった。しかし、アンケートフォーム作成のために、入力チーム全体で意見交換をすることができたのはいい機会となった。一方で、こまちカフェのイベントに参加する方々から「地域こそだてカレンダーを見て申し込みをした」という嬉しい声を多数いただくことができ、今後も届いたイベント情報を丁寧に入力し、公開していきたいという意欲につ

なだった。今年度の地域こそだてカレンダーの閲覧数は約 13,000PV である。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員:10 名
- ・受益対象者:区内外の母子中心に、のべ 13,000 名程度
- ・支出額:221,723 円

2. とつかの子育て応援ルームととことこ 情報スペース運営事業

- ・内容:【概要】年間約 1 万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設において、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1 人の情報コンシェルジュが常駐し、月間 100 件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】感染症の状況が落ちついてきた影響から、親子で参加できるイベントやお出かけ情報など地域情報を求めて来所する方が増えた。2022 年度は、区と連携し毎月 1 回の Twitter 投稿やとことこの HP でのつぶやきを通して、まだとことに足を運んだことのない方への周知を図った。また、ひとり親の情報ファイルを作成したほか、不登校ひきこもり、子どもの発達に関する相談など連絡先カードを入れたカードケースを外ラックに設置。とことこ開所時間外でも、情報をより見つけやすく手に取りやすいよう工夫した。プレイスペースの壁面掲示は、区内のパパ交流会、クリスマスイベントなどテーマごとにチラシを集めて掲示、いちご狩りマップ、お花見マップ、戸塚駅周辺の公園情報などマップも掲示。目的地までアクセスを電子読み取りコードでダウンロード出来る工夫もした。お子さんがプレイスペースで遊んだ後、次はここに行ってみよう、とそのままお出かけする方も多く見られた。傾聴や個人情報研修への参加では、他団体の工夫や悩みの共有や地域の子育て支援関係者とのつながりを得ることができた。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
- ・従事者人員:5 名
- ・受益対象者:のべ 8,851 人
- ・支出額:1,633,628 円



↑ 戸塚区役所 3 階



↑ 情報スペース

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

1. こまちカフェ

- ・内容:【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩 7 分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつ

くっている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネートしながら活気のある場をつくっている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響が続く中、主に子育て世代の方、地域の方に安心して過ごせてもらえるよう運営した。10周年記念イベントとして、パートナーさんからのアイデアなどから生まれた様々な企画を行った。カフェ玄関に「ありがとうの木」を作成し、こまちカフェやこまちぶらすの活動を通して出会った誰かへのありがとうやエピソードを集め、交流をはかった。特別メニューの「10th パフェ」の販売やオリジナルのタンブラーの販売も開始。また、こまちカフェ近くにある戸塚小学校の生徒さんたちが育ててきた数多くのトマトを使った新メニュー開発をする機会に恵まれ、オリジナルトマトベリーゼリーやトマトパウンドケーキを開発し、戸塚小学校の生徒さんにも試食していただき交流をはかった。また、リラの家のミールサポートでの出張料理や、お弁当の宅配も行い、その他多数の外部出店も。こまちカフェを広く知っていただく機会となり、地域との交流もできた。12月には長野県松代町に出張「ワンデーこまちカフェ」を開催し、他地域の皆さまへこまちカフェでの取り組みをお伝えする機会となり、スタッフ自身も日々やっていることの意味を再確認することができた。

お菓子部門では、お菓子工房をリニューアルし2倍のお菓子を作れるよう設備を整え、戸塚出身型染め作家関美穂子さんデザインの新しいお菓子パッケージや、お菓子のコンセプトとなるカードなどの制作を行った。また、姉妹店となるこよりどうカフェオープンに伴い、新しいスタッフの採用を行い、より飲食部門の体制を強化し、2店舗となってもそれぞれの店舗が運営できるよう連携を行った。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：18名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 11,366 名程度
- ・支出額：16,306,040 円



↑ 10周年ケーキ



↑ 戸塚小個別級×こまちカフェトマトゼリー



↑ ありがとうの木

2. こよりどうカフェ

- ・内容：【概要】2022年12月に、「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内に「こよりどうカフェ」をオープン。

こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指す。利用者のみならず運営に関わるボランティアも年齢や障害の有無を問わず様々な方が関われる場として運営。日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）にて、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携を進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に足を運び過ごすことが難しい方々との接点を作ることに取り組む。

【今年度の成果】

○開店準備：開店に向けては、2022年夏頃より様々なスタッフに参加できる形でミーティングを複数回重ね、コンセプト作りを実施した。店名の決定等においては、スタッフから多く出た「大切にしたいこと」「どんな場にしていきたいか」を活かした形で進めた。開店までの道のりを多くの方と一緒に歩むものとするよう、クラウドファンディングを実施し326名の方からの応援をいただいた。組織作りとしては、新しいスタッフを10名採用し、ビジョンについての研修やチームビルディング、店舗運営についての仕組み作りに力をいれた。

○開店後の組織作りと運営：開店後は、連日多くのお客様をお迎えしながらスタッフと共に日々の運営の工夫やチーム体制を整える一方、新しいメニューの導入とそれに伴うレシピ開発、お店のコンセプト等をまとめた「カフェブック」やLINEスタンプの作成、新しいスタッフが多くアイデアを出しながら取り組みを進められた。

○地域連携：2023年度からの本格実施に向け、近隣保育園2箇所と連携しお惣菜のお届け事業のトライアルを2月に実施し、3回の実施に延べ16名のご利用があった。また、障がいのある方の就労以降/継続支援事業所とも相談を重ね、カフェでの実習の導入に向けて検討を進めた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区矢部町
- ・従事者人員：20名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 3,972 名程度
- ・支出額：6,194,598 円



↑こよりどうカフェ「一汁三菜ランチ」



↑テイクアウトのお惣菜



←カフェタイムのスイーツ

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」(発達障がいをもつこどもの親を対象に情報発信・イベント実施)

- ・内容：【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と、依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】2022年度も感染対策をしながら、お話会、勉強会を開催した。毎年人気の、公認心理師による勉強会は、「佐々木正美ノートを使って」から「本田秀夫先生の「学校の中の発達障害」の本を使って」とテーマを変えて開催した。佐々木先生の時と同様、本田先生とも一緒に仕事をした事がある講師のお話はとても興味深く、本の内容も噛み砕いて説明していただいた。従来の勉強会に加え、栄区のこども家庭支援センターにじの社会福祉士の方をお招きして「発達障害のある子の子育て～園や学校、まわりの人達との関わり方について～」という勉強会を開催した。講師の方も発達障害のある子の子育てをしているので、経験談を交えながら、実際に使ってよかったものや絵本など、役に立つ情報を教えていただき、勉強になった。また、父親も参加できるように日曜日に「発達障害のある子の進路選択について」の勉強会も開催した。講師は通級や特別教育総合センターに勤めていた男性教諭の方に来ていただいた。27人の参加者のうち6人の父親の参加があり、「父親同士で悩みを話せる場がなかったので、参加してよかった。またあったら参加したい。」と話され、父親同士で連絡先を交換する姿もあった。戸塚区内で親子支援をしているボランティア団体の集まり「ポンテ」にも月に1回参加し、情報交換を行ったほか、3年ぶりにポンテの自主上映会を開催することができた。

- ・日時：5月6日、6月3日、7月1日、8月5日、9月2日、10月7日、11月4日、12月2日、12月11日、1月6日、2月3日、3月3日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ97名程度
- ・支出額：215,139円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会を開催。

【今年度の成果】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にすること」を目指し活動した。2021年度に引き続き、参加者にヒアリングした際に関心の高かった「介護保険」「介護とお金について」等のミニ勉強会も取り入れた他、対話のツールとして「ともに生きることばカード」を使用した企画も実施。

- ・日時：4月19日、5月17日、6月20日、7月29日、10月18日、1月30日、3月20日 計7回実施
3月28日（計9回開催）
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：1名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ20名
- ・支出額：47,290円

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」（不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月1回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒（学齢期）の家族の方がお話

をする場。

【今年度の成果】 事業の立ち上げ5年目となった2022年度は、引き続き不登校・ひきこもりの子を育てた経験のある方から進路についての話を聞いたり、不登校経験をした当事者の方の話を聞いたりすることで、気づきや安心感を得、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。また、不登校児童生徒支援コーディネーターの方をお招きし、行政・学校現場の状況等お聞かせいただく機会も設け相互理解を深めることができた。初の試みとしてヨガで体を動かし、母親が自分を大切にするという気づきを得られる会となった。オフラインで開催されている場所がまだまだ少ないため、横浜市近辺にお住まいの方だけでなく、他市・他県の方にも参加いただけた。9月から3回、不登校の子どもたちの外出機会、学びの機会づくりとして親子の居場所を開催した。親子で安心して過ごせる場を持つことができ、参加をきっかけに積極的に外に出られるようになったお子さんもいた。戸塚区ふれあい助成金の助成を受け、地域との連携を深めながら実施。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支えてくださった。ポンテという区内のネットワークの会にも月一回参加し情報交換をしている。

- ・日時：4月17日、5月2日、6月18日、7月17日、8月20日、9月10日、9月17日、10月16日、11月12日、11月19日、12月17日、1月15日、1月21日、2月18日、3月18日、3月19日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ106名
- ・支出額：256,488円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。

【今年度の成果】新型コロナウイルスの影響が少なからず続く中、主に子育て中の方が安心して外出でき、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、レンタルスペースの貸出とイベントの開催を行った。2022年度末からは新たにこよりどうカフェでもイベント開催を開始した。

定期契約13名を含め、のべ42名の方にご契約いただき、子育てに関する講座やおしゃべり会、ヨガやピラティスなど体を動かす講座、手形アートや編み物などの手作りワークショップ、整体施術や食に関する講座、親子遊びや撮影会、在宅起業の勉強会など、年間約360件の多種多様なイベントが開催された。

毎月発行しているイベントカレンダーチラシは、部数を1500部に増刷し、こまちパートナーの協力も得て、戸塚区内を中心に約57か所の施設・店舗に配架している。こまちカフェを知らない方、幅広い年代の地域の方が手に取り、カフェに足を運んでいただけるような紙面づくりのほか、SNSを活用して、様々な媒体からより多くの方への情報発信・告知を行った。年度中に2回、イベント主催者が集まる契約者交流会を開催し、それぞれの活動や思いを共有して情報や意見を交換する機会となり、横のつながりを作ることができた。イベント後のチェックやアンケートのペーパーレス化や提出書類の簡易化、わかりやすい「利用の手引き」作成など、契約者が利用しやすいよう工夫し、レンタルスペースの価値をより高めることができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,400名程度（オンライン参加者を除く）
- ・支出額：1,324,582円



↑こまちカフェイベントカレンダーチラシ（毎月発行）



↑新聞を使った親子のワークショップ



↑家族写真の撮影会



↑ベビーヨガ

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。

0か1ではない働き方（自宅にいながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】販売面では、昨年度と同じく「大切な人への贈り物展」と題したハンドメイド作品販売イベントを季節ごとに計4回開催。毎回20名近くの方が参加され、子どもを連れて販売する様子は一般のハンドメイドイベントにはないこまちカフェならではの光景となった。契約作家同士の交流会は今年度は3回開催。近隣のショッピングセンターや地域ケアプラザからもお声かけいただき、出張マルシェを計3回開催した。イベント出店時には希望者に運営お手伝いをお願いし、外出の機会や他の方との交流の場として役立っている。12月には長野県松代町の「ワンデーこまちカフェ」内での手づくり品販売も行い、昨年度の鳥取県に続き県外での販売ができた。12月にオープンした姉妹店こよりどうカフェにて手づくり品の販売も徐々にスタートさせ、「猫好きさんのおしゃべり会」イベントと連携して同テーマの作品販売を行い、「子育て」ではない新たな切り口でこまちぶらすを知っていただく機会、足を運ぶ機会にもなった。また有限会社heart.comさまにお力添えをいただき、1年を通して2022年度ウェルカムベビープロジェクトのプレゼント製作を有志の契約者と共に行った。16名の方にご協力いただき、手づくりのぬくもりが伝わるようなガーゼのハンカチと、手書きのお祝いメッセージを添えた各ご家庭へのメッセージカードを製作した。プレゼントを包む封筒は保土ヶ谷養護学校の生徒さんにご協力いただき手作業で作ったものを使用して、200枚のハンカチをプレゼントとして納品した。作業面では、これまで煩雑化していた契約料支払いの事務作業を見直し、よりスマートにお待たせすることなく作業を行えるように修正した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名

- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ 1,499 名程度
- ・支出額：738,698 円



↑こよりどうカフェ小物販売



↑大切な人の贈り物展

V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016 年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018 年から横浜市鶴見区、2020 年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022 年には茅ヶ崎市でも支部が立ち上げられた。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いの内容は選考会にて 4 人の選考委員により認定されたものが入っており、申し込みがある世帯へ無料で配布している。このプロジェクトの資金はすべて民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）でまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。

【今年度の成果】4 つめの支部となる「茅ヶ崎支部」（事務局:地域のお茶の間研究所さろんどて）が立ち上がり、年間通して 4 つの支部で贈った出産祝いは戸塚 922、鶴見 646、松戸 300、茅ヶ崎 150 と合計 2018 人の赤ちゃんに贈ることができた。

[戸塚支部]

○出産祝い部門

2022 年度の出産祝いは、発送数戸塚区 922 個、参加企業団体数 18 社と、いずれも過去最多の数をお届けすることとなった。まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」についても、自宅で縫ってくださる方や、地域ケアプラザのイベントとして開催される機会や商業施設のイベントでのワークショップの実施に加え、近隣の介護施設でも入居者のレクリエーションの一環として、作成いただく輪も広がっている。

○産前部門

2022 年 10 月より、戸塚区在住の妊娠中から 0 歳児の方（主に生後 4 カ月頃までの方）を対象とした情報を毎週 1 回程度お届けする「とつかウェルカムベビーLINE」を開始した。戸塚区内の産前産後の情報を得られる場や媒体の紹介、ウェルカムベビープロジェクトの出産祝いやイベントの案内、行政サービスやサポート情報、防災関係の情報を届けた。現在、177 人の登録者がいる。（2023 年 4 月 7 日現在）

2023 年 3 月には、こよりどうカフェにて戸塚区子育て支援拠点とつと芽に協力いただき、「沐浴・妊婦体験会&ミニ交流会」を実施した。2 組の参加者があり、体験後は 2 組の先輩ママと産後直後の生活や子育てについてお話をする機会を創出した。近隣の産院と協働でプレママ・プレパパ講座を継続実施し、5 年目となる。2020 年度に引き続き、オンラインでの開催となったが、計 2 回で 48 組の参加があった。本イ

ベントへの参加をきっかけに、産後部門のイベントへの参加やこまちカフェへの来店につながる方もいらした。

○産後部門

産前産後の母親の交流の場を、オンラインのみならず対面の機会を増やしていくよう見直しをし、月2回こまちカフェにて「ゆるっとママカフェ」の実施を開始。オンライン/カフェ開催合わせて13回59名の参加があった。参加をきっかけに母親どうしが連絡先の交換等を行い、こまちカフェでのランチ会を実施するなどの発展も見られた。

○タウンポーター/ナッピーデー

子連れでの外出を後押ししまちの様々な場が「ウェルカムベビー」となることを目指し、子育てを応援、子連れでの来店を歓迎する商店等に「タウンサポーター」として登録していただき、登録店舗を「とつかママつながりラボ」の協力にて作成した「とつかウェルカムベビーマップ」に掲載。また、登録店舗のうち任意にて参加する店舗と共に毎月7日を「ナッピーデー」として、子連れでの来店客への各種サービスをするイベントも実施。タウンサポーターは2023年3月現在10店舗、うち6店舗がナッピーデーに参加。ナッピーデーは2022年4月～2023年3月で12回開催した。

〔本部〕

○支部展開

2020年度より開始した松戸支部（事務局：まつどでつながるプロジェクト）に加えて、2022年度から活動を開始した茅ヶ崎支部（事務局：地域のお茶の間研究所さろんどて）への伴走を実施し、松戸市では300個、茅ヶ崎市では150個の出産祝いを配布。また、2020年度までは本部が担ってきた横浜市鶴見区での出産祝いの配布を、昨年度よりさらに全面的に鶴見支部の事務局である「つつみまっぷ」に運営委譲を進めた。4部が4つに増えたことを受け、交流会の実施や情報交換が取り易くなるようSNSのグループの作成を実施。

○その他・パートナー企業との連携

東京キリンビバレッジサービス・花王株式会社との協働で開発された「おむつ自販機」が様々な地域、施設に設置され、2023年3月には戸塚区総合庁舎への設置も完了し、全国で90台を超えている。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員：9名
- ・受益対象者：戸塚区・鶴見区・松戸市・茅ヶ崎市で生まれた赤ちゃんのご家庭の方 のべ 2000名程度
企業、一般市民など延べ300名程度、計のべ3300名程度
- ・支出額：3,585,195円



↑ 出産祝い選考結果発表会



↑ ゆるっとママカフェ

2. つながりデザインプロジェクト

- ・内容：【概要】 飲食やイベントなどをきっかけに訪れた方々が、「互いに関心を持つ」や「自分の思いを語り合う」

といったゆるやかな入口からスタートし、自身の「やってみたい」を見つけ、やがて「地域課題や他者のニーズと掛け合わせることで自分らしい参加と活躍のできる機会をつくり出す取り組みをしている。

【今年度の成果】月1回開催しているパートナー登録会では32名が新たに登録、パートナーぶらす交流会では7名の参加があり、延べ60名程のパートナーの皆さんのお力添えを頂いた。特に10周年イベントではオンラインやオープンチャットを使いながらプレスト会議を開催。「ありがとうの木」やムービー企画、新たなメニューの試食会やパートナー限定イベントなどパートナーのアイデアを寄せて頂き一緒に10周年を盛り上げた。その他、カフェでは菓子作り、見守り、チラシ折りや配架、在宅では地域子育てカレンダーのデーター入力、寄付者の方へのインタビューのまとめ、背守りの作成など多くのお力添えを頂いた。また、今年度は新店舗こよりどうカフェでのプレオープンや試食会、撮影協力、お菓子のリーフレットのアイデア出しなど新規事業にも多くのアイデアとご意見を頂いた。また、3名のスタッフに対しコーディネーター研修を行い、それぞれパートナー登録会、パートナーぶらす交流会を担当、お菓子づくりや見守りや軽作業の声かけをするスタッフが増えた。同時に昨年度より取り入れたパートナーLINEではお願いごとを各事業のスタッフが発信し、パートナーとのコミュニケーションを取る機会も増えた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ 110名程度
- ・支出額：886,194円



↑ 10周年ムービー作成



↑ 背守りもくもく

3. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】92名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。「子どもも高齢者も障がいのある人も、誇りと居場所と出番を感じられる地域」を目指し、商店会としてできることを模索しながら活動している。

【今年度の成果】2022年度は定例会を年11回開催し、懇親会をオンラインにて1回開催した。会員向けの情報発信としてほのぼの便りを毎月1通作成し、定例会の議事録などの情報共有をした。新型コロナウイルスの感染状況を見ながらイベントを4回開催（7月とつフェス、10月ほのぼのフェスタ、1月アンブテューサーサッカーワールドカップ写真展、おもちつき大会）。10月のほのぼのフェスタは2年振りのリアル開催となり、会場を3か所に設け、スリッパ卓球戸塚大会・マルシェ・LIVEなど戸塚駅西口エリアの商店会と同時開催した。中でもLIVEステージでは今年度作成した商店会テーマソング「sunny day song」を地域密着型シンガーソングライターの kaho*さんが初披露し、200名以上の方の観覧があった。スリッパ卓球では区外からのエントリーも含め40名以上が参加、見学者も合わせ120名の来場があった。3年ぶりの開催となった「とつか区民祭り」では飲食店3店舗の出店に加え舞岡高校の竹林整備で切り出した竹を使い

楽器作りのワークショップを行い、50 人のお子さんや保護者が参加。舞岡高校の生徒や教員 8 名がボランティアにかけつけ、会員と地域住民との交流の機会になった。宅配事業はシステムの見直しを行うと同時に高齢者施設への配達を 1 回おこない、29 食をお届けした。前年度に引き続き、ウェルカムベビープロジェクトの出産祝いに商店会有志メンバーから絵本のプレゼントをエントリーし、採用された。まちで赤ちゃんの誕生を祝うきっかけが生まれている。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：92 名
- ・支出額：858,134 円



↑とつフェス



↑もちつき大会



↑ほのぼのフェスタ 2022 (↑kaho*さんライブ



↑スリッパ卓球↓)



↑舞岡高校 竹林整備



↑区役所アンプティーサッカー展示



VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。

【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぷらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。2022 年度は日本財団の助成を受け、居場所をこれから立ち上げる方を対象に「心地よい関わりが生まれるカフェのつくりかた」講座をオンラインにて開催。北海道、山形、長野、岡山、熊本、神奈川と様々な地域より参加者があり、そのうち 3 箇所に、実際の立ち上げにむけた個別伴走も実施した。

- ・日時：通年
- ・実績

[主催講座]

- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～飲食編～

- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～手作り小物販売～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～イベントスペース貸し出し～
- ・居場所づくり学びあい講座
- ・心地よい関わりが生まれるカフェのつくりかた

[視察受け入れ]

- ・北見市市議会
- ・海外日系人協会
- ・その他個人、地域団体より

[講師派遣/講演会等]

- ・神田外国語大学、フェリス女学院大学、明治学院大学にて講演
- ・長野市民協働センター講座にて講演（オンライン）
- ・よこはま市民協働推進センター 協働トライアルセミナー
- ・よこはま市民協働推進センター 対話&共創ラボ
- ・熊本県 縁側 moyai スタッフ研修
- ・ETIC 主催「居場所づくりは地域づくり」
- ・NPO 法人子育ての輪 lei スタッフ研修
- ・横浜市政策局男女協働参画課 グッドバランス賞認定企業向けセミナー
- ・横浜南区役所 みなみちからアップ交流会
- ・NPO 法人 MamaCan 中期計画策定コンサルティング 他

[講師派遣/ICT 支援]

- ・zoom 講座

[その他 取材対応/調査協力/アドバイザー]

- ・横浜夢ファンド ファシリテーター 他
- ・場所：神奈川県、東京都、オンライン対応等
- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 500 名程度
- ・支出額：6,910,608 円